



復刊第101号  
題字 吉岡 弥生

# 昭和六十年々頭の辞

会長 三神美和

明けましておめでとうございます。会員の皆様にはよい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

物騒なこと多い世の中ですが、私どもの日本女医学会は、昨年もつづがなく過ぎ、平和な年を迎えることができました。本当にありがたいことだと思えます。これもひとえに、会員諸姉のご協力の賜と存じまして、心から感謝しております。

昨年一年をふり返ってみますと、いろいろなことがありました。その一つはカナダにおける国際女医学会議のことでございます。七月三十日から一週間、もっとも暑い時を、涼しいバンクーバーで過ごせたということだけでも有益であったと思っておりますが、その会に日本から八十

名あまり出席され、二題の演題を出して、立派に発表されたことは、本当によかったと思えます。またその上、その会で、長い間の功績が認められて、佐野アヤ子先生が、国際女医学会の名譽会員に推挙されました。このことはご本人はもとより、日本女医学会の名譽として記さるべきことと存じます。

また柳瀬路子先生は一万ドルを国際女医学会に寄附され、その使途についてはいずれ案を練られると思えますが、総会の席上、万場の拍手をもって称えられたことは、日本人として胸を張る思いで、大いに感銘をうけました。富める国のイメージを持たれている日本が、他を援助する国に変わりつつある時、日本女医学会もその一員たるよろこびを噛みしめた

思いました。国内においては、公許女医誕生百年記念行事が特筆すべきものでした。昨年春、朝日新聞女性記者高橋万里子氏から、そのことについてお尋ねがありましたので、理事会に議案として提出し、一同で案を練り、十一月十日(土)に記念式を行なうことと、第一号女医荻野吟子女史についての講演、荻野吟子女史の設定、公許女医第一号誕生百年後の今日の日本各地の女医の活動状況の報告などを行なうことに決定しました。

当日は晴天に恵まれ、各支部会員など百名にのぼるご出席と、荻野吟子女史の由縁の方のご出席を得てなかなかの盛会で、主催者として満足ございました。この状況についてはいずれ他日、本誌に掲載されることと思えます。明治十八年に一名の女医が誕生してから一世紀を経た今日、時が移り、時代が変わったとはいえず、一万七千余の女医が日本各地、さらに外国にまで進出して、社会的に活躍していることは、本当に素晴らしいことだと思えますし、世間はこれを契機として一層女医に注目すると思えます。私どもは一層心をひきしめて、われわれの生みの親荻野吟子女史の恩に報いなければならないと思えます。

十月二十七日に岡崎市で行なわれた本会の研修会もまた、実り多い会でありました。日本のNIHに相当する国立共同研究機構生理学研究所の見学、それに加えて世界的の学者

## 目次



- 昭和六十年々頭の辞……………三神 美和 (1)
- 公許女医誕生百年記念行事挙行さる  
会長挨拶……………三神 美和 (2)
- 公許女医誕生百年記念式概況……………久保田くら (2)
- 公許女医誕生百年記念式を終わって……………白橋 美笑 (3)
- 各地区における女医の活動状況報告
- 北海道地区……………今 鷺子 (4)
- 東北地区……………長池 博子 (5)
- 群馬支部活動状況報告……………岸 直枝 (6)
- 中部地区……………森川みどり (7)
- 大阪地区……………大原 一枝 (7)
- 中国地区……………小川 富美 (8)
- 四国・九州地区(主として四国関係)……………小出つる子 (9)
- 第七回学術講演会の報告……………橋本 葉子 (10)
- 学術研究助成研究経過報告
- ACTH作用増強因子の研究……………飯田さよみ (12)
- 脳ドパミン受容体の病態に関する研究……………田中千賀子 (13)
- MWIA ニュース……………山崎 倫子 (13)
- 第三十回定時総会のお知らせ…………… (4)
- 告示…………… (5)
- 会員の消息…………… (14)
- 理事会議事録…………… (14)
- 常任理事会議事録…………… (15)
- 会員動静…………… (16)
- 編集後記…………… (16)

# 公許女医誕生百年記念行事挙行さる

## 会長挨拶

本日公許女医誕生百年の記念式を開催しましたところ、初めての女医荻野吟子先生の由縁の方をはじめ、来賓各位のご臨席を頂きました日本各地から多数の会員のご列席をいただきまして、まことにありがとうございました。明治の新しい医療制度の下に、女医が許可されてから一世紀を経たことは、まことに感慨深いものがあります。今年から始めて百年になるので、何か記念となることをしなければと思っておりましたところ、この春朝日新聞社高橋万理子さんの方から、そのことについてお尋ねがありまして、ああ、世間の方も注目して下さっているのだと深く感

三神 美和

激し、早速理事会にはかり、どんなふうに行事を行なうべきかを協議しました結果、本日の記念の会の開催となりました。

荻野吟子先生が国が定めた医術開業試験をうけ女医となるまでの困難な道のりは、すでに女医史にも、また小説にもなっており存じの方も多くおられると思いますが、今日私どもが易々と、何の抵抗もなく医者となり、活動できますのも、荻野吟子先生のお蔭だと思えます。先生は現代の日本の女医の生みの親であります。明治維新を迎え日本は、西洋文明をとり入れ、封建性を打破したといえ、深く根づいた男尊女卑の思想からは抜け出せなかつたので、教育面においても、医療制度において

であられる江橋節郎教授の「カルシウムイオンと生命科学について」のご講演、いずれも大いに啓発されるものでした。日頃大都市のみ往來する私などは、徳川家康の本拠である岡崎の名はよく知っていますが、行くのは今度が初めてで、電車の乗り方も教えていただいたありさまでした。立派な市街や閑静な市外の様子など拝見できて本当によかつたと思えました。いつもながらの学術部の

方々の企画の良さに感心し、感謝しました。

今年は五月に役員改選があります。これは三年ごとに行なわれる本会にとつての最大の事項であります。現在の役員は皆さまがよくやっておられ、出席率もよいと思えます。若い方も多数おられます。古いベテランの方もおられます。理事会では十分意見を言い合つて議事を審理しております。来る五月には、現在のよ

うに、若い方も、ベテランの方も入り混つて役員に立候補され、よりよい日本女医会に発展するよう努力していただきたいと存じます。

日本女医会は社団法人として確立された日本における唯一の女医会でありますので、本会が中心となつて日本女医の方向づけをなさねばなりません。会員相互の親睦を計り、お互いに切磋琢磨しつつ、社会のために役立つよう努力し、また他方、医

師の団体として、国の医療行政にも十分眼を向けて行くことが大切だと思います。さらに今後、国の国際化に伴ない国際的にも視野を拡げる女医であらねばならないと思えます。私どもに課せられた道は険しくとも、一致協力して事に当たれば、道はおのずから開けると思えます。

昭和六十年、一九八五年の年頭に当たり、日本女医会並びに会員諸姉のご発展を祈念しご挨拶と致します。

## 公許女医誕生百年記念式概況

庶務部 久保田くら

昭和五十九年十一月十日、京王プラザ・ホテルにおいて公許女医誕生百年の記念行事が行なわれた。

司会久保田くら、参加者全国各地から百名をかぞえる。

### 記念講演

演題「公許女医誕生から百年——荻野吟子を中心に——」

順天堂大学助教授(医史学) 酒井 シヅ

演者紹介 小俣喜久子副会長。

酒井先生は元来、三重大学医学部ご出身の解剖学者であり、脳のご研究をされ、小川鼎三先生門下であるNHK時代劇の時代考証をされることもあるところのユニークな方であ

る。近著「日本の医療史」がある。

各地における女医の活動状況報告

各演者を川島富久子理事紹介。

北海道地区・今鶴子、東北地区・長池博子、関東地区・岸直枝、中部地区・森川みどり、大阪地区・大原一枝、中国地区・小川富美、四国・九州地区・小出つる子の諸会員から、各氏の個性を豊かに發揮してのご報告があつた。

### 荻野吟子賞授与式

日本女医会では公許女医百年を記念し、荻野吟子賞を設定した。このたびは、第二次世界大戦の敗戦後の中で、日本女医会の復興のために各支部づくりの任にあたり、粉骨砕身努力して、その大役を果たしたとして、会員・大村ひさゑ、川那部喜美子の両氏に授与することに決定し、本日の授賞式となつた。

大村ひさゑ先生は、甥御大村敏郎医師が、川那部喜美子先生は、関西医大同窓生で会員の大原一枝先生がそれぞれ代行された。大村敏郎先生は、大村ひさゑ先生がこのたびの授賞を大いに喜ばれ、感謝のおもむきを諸会員によりしく、そして日本女医会のご隆昌を祈る向きのメッセージを読まれた。大原一枝先生は川那部先生が感激しておられる向きを皆さんに伝えられた。大村敏郎さんは、早く伯母を喜ばしたいといわれ、早々に帰宅された。

両先生に心からお祝いを申し上げ、

も女子にとつては閉ざされた門でありました。その環境の下で、すべての困難を克服し、男子に劣らぬ実力をつけて、ついに医術開業試験の門を開放させた荻野吟子先生の情熱と、強い意志、固い信念に對し、私どもは深い感銘をうけ、敬意と感謝を捧げたいと思います。またそのことを許可された時の衛生局長、長与専齋先生、種々ご助言とご尽力をいただいた時の軍医總監石黒忠憲閣下に心からの感謝を捧げたいと思います。

このたび日本女医学会は、開拓者荻野吟子先生の徳を称え、この名を永久に伝えるために、荻野吟子賞を制定し、女医のためにとくに功績のあった方に贈ることに致しました。本日行なわれる第一回受賞者は、戦後日本女医学会再発足に当たり、ご尽力下さいました現存のお二人、大村ひさる氏と、川那部喜美子氏でございます。この賞は吉岡弥生賞とともに、日本女医学会のつづく限り、毎年つづけられるものでございます。

明治十八年ただ一人の女医が誕生し、女医への道を開かれてから百年経った今日は、日本における今後のご多幸を祈念する次第である。

閉会の辞

福永ひろ子副会長長のべて、本記念式のすべてはめでたく終了した。

懇親会

女医の人数は一万七千人余を数え、男医の十分の一を占めるに至りました。そして全国各地において、また外地にまで進出して、地域のため、社会のために尽力しております。本日は現在日本の各地における女医の活動状況をかいつまんで、各地区の代表者から報告していただくことになっております。

先生の開かれた道は、時代とともに広く、大きくなっております。男女平等が叫ばれております。今日、真の平等は、その能力と実力とを女性も男子同様に持たねばならない。その時にはじめてこの言葉が生きてくると思っています。今日私ども女医は男医に劣らぬ能力と実力を持つていると自負しておりますが、私どもはさらにこの百年の記念式を契機として、心を新たに、開拓者荻野吟子先生のつよい意志をうけつぎ、相ともに手を携えて、社会のため、人類のために、その力を、能力を注がねばならないと思っております。このことが女医の生みの親への謝恩であり、報恩となるからであります。皆様のご健闘を祈つてご挨拶に代えさせていただきます。

記念式終了後、ただちに懇親会を開始。司会石原幸子理事。記念すべき会に(式にもご出席)荻野先生のご遺族様のご挨拶をなさり、この会に錦上添花をお添えいただき、たいそう喜ばしいことと感じ入っている。

この会の懇親会にふさわしく、埼玉県在住の秋山さんが、荻野さんのご生家にご関係深い野口様(吟子さんの姉上の婚家先)等にかがっての

公許女医誕生百年記念式を終わって

事業部 白橋 美笑

十一月十日、京王プラザホテルにおいて公許女医誕生百年記念式が催され、全国から約百名近い日本女医学会の先生が参集され、またNHK記者と写真班が同席され、百年前、女医第一号荻野吟子女史の誕生が、一般の方がたにも関心をもたれていることを強く感じました。

まず久保田先生の司会で、三神会長の心強いご挨拶から始まり、つぎに副会長小保先生から順天堂大学助教授酒井シヅ先生のご紹介があり、先生は医史学の権威者であり、また女医でもあるとのこと、ことに、「荻野吟子先生を中心に」の題名で吟子女史の誕生から女医になるための苦難な道と生涯を、医師と社会活動に尽力されたことを、細かにご説明され、更めて吟子女史の偉大さを見直すと同時に、女医第一号から百年を経た今日、ますます女医のめざましい活躍を誰が予想し得た事でしょう。

あらゆる分野に亘って各地方津々浦々まで女医の活躍が広がり、日本女医学会も国外や国内に進出され頼も

有益な話があった。なお、会はいとも賑やかにすすめられ、おひらきになった。

しい年となりました。今日のこの百年目にふさわしい荻野吟子賞が設けられ、その第一号に日本女医学会に尽力された川那部喜美子先生と大村ひさる先生が選ばれました。三神会長より賞状「日本女医学会は女医公許百年を記念し第一号荻野吟子の名にちなみ、日本女医学会再発足に身を挺して尽力された貴女の抜群なご功績を称え、よってここに荻野吟子賞を授与いたします」と金一封が授与されました。

これで式典も副会長福永先生の閉会の辞で無事終了いたしました。ついで席を変えまして、懇親会に移り、石原先生の司会で会長の美しい笑をたたえられたご挨拶があり、ついで高年者でそれこそ地道に日本女医学会のため誠心誠意お尽くし下さった佐藤イクヨ先生の乾杯で、皆ホットした気分でご飲み、食べ、久びさの友との語らいの合間に、各地方の先生方のテーブルスピーチがあり、皆意気盛んな女医の姿を見て、ますます女医学会の発展を心に念じつつ今日の良き日が終わりました事を感謝

いたしております。最後にになりましたが、荻野吟子先生の四代目に当たる荻野将司様もご同席され、終始心なごむお顔で今日の式典を大変感謝されましたことをつけ加えておきます。

なお、雑司ヶ谷の吟子女史の墓地管理をやっておられ、現在八王子にお住まいで記念式のため資料を心よくお借し下さりまして、ここで重ねてお礼を申し上げます。

受賞者の略歴を簡単に記させていただきます。

\* 一、川那部喜美子先生(明治四十二年九月四日生まれ)  
現住所 京都市伏見区深草出羽屋敷町二十三 ファミール 伏見A一一一。

現職 関西医科大学名誉教授 専門 内科  
日本女医学会に關しての活動  
(1)昭和三十年副会長に就任、昭和五十四年まで。  
(2)昭和三十五年の国際女医会議ドイツ(バーデンバーテン)に開催、戦後はじめての正式加盟国として十九名出席し、

学歴 昭和八年大阪女子高等医学専門学校卒(現関西医科大学)  
現職 関西医科大学名誉教授 専門 内科  
日本女医学会に關しての活動  
(1)昭和三十年副会長に就任、昭和五十四年まで。  
(2)昭和三十五年の国際女医会議ドイツ(バーデンバーテン)に開催、戦後はじめての正式加盟国として十九名出席し、

加加盟国として十九名出席し、

その団長をつとめる。

(3)昭和五十一年の国際女医会議  
日本(東京)に開催、その際  
運営委員長をつとめる。

二、大村ひさる先生(明治三十四年  
十一月十三日生まれ)

現住所 東京都中野区本町四十三  
十四一三。

学歴 昭和五年東京女子医学専  
門学校卒(現東京女子医  
科大学)

専門 産婦人科  
日本女医学会に關しての活動

### ■各地における女医の活動状況報告

## 北海道地区

北海道支部 今 鸞子

荻野吟子女史女医公許百年を記念  
する年に当たり、日本の女医の元祖で  
あり先駆者である女史が、北海道が  
まだ蝦夷と言われていた明治二十七  
年、すでに渡道され、女医の存在、  
女性の医界進出の足跡を残して下さ  
った事を、私ども北海道の女医とい  
たしましては、今さらながら強い絆  
を感じ、深い感銘を受けるのでござ  
います。

現在北海道の女医総数は四百八十  
四人ですが、毎年二十名前後の女医  
が道の三つの大学より巣立ってこら  
れます。

(1)昭和三十二年常任理事に就任、  
昭和四十二年まで。  
(2)昭和四十二年より日本女医会  
名誉会員。  
以上、簡単に述べさせていただき  
ました。なお、吟子賞は毎年吟子賞委  
員会で選考し、受賞者を選出します。  
そのためにも募金をつづけて行な  
いたいと思います。一口千円です。  
心ある方は、ぜひよろしくお願いい  
たしたいと思ひます。

女子医専ご卒業の岩田八千代先生で  
す。永年に亘り札幌市にてご開業で  
したが、今は引退されご子息の病院  
で周囲の暖い目に見守られ、静かな  
余生を送っておられます。目覚しい  
活躍をなさっておられます数々の方  
のうち、学究としてこの道一筋に進  
んで来られました方に北大医学部奥  
山春枝助教授、札幌医大高氏昌助教  
授がおられます。数多いご研究は、  
高く評価され、また女性の学者とし  
て高名です。次にご開業を盛大にな  
されご繁栄の方、田中リン先生をご  
紹介いたします。先生は札幌市郊外  
の約二千五百坪の地にベッド三百五  
十の老人病院を開設されておられ、  
また附属特別養護老人ホームも先生  
のお名のリンをとられて愛の輪すな  
わち愛輪園と名付けてお建てになり、  
老人の平和で静かな憩いと場、現代  
社会の老人の理想郷造りのために心  
を注いでおられます。

また浜田幸江先生は、ご子息夫人  
も女医でいらつしやいます。ご子  
息皆様医師でこのご家族が一九とな  
って脳神経内科、とくに脳神経内科  
に係わる難病に取り組んでおられ、  
北海道では数少ないタイプの病院と  
して衆目を集めておられます。

次に僻地において永い年月地域住  
民の健康を守り続けて来られた方々  
に、今野タイ先生、絹川タミ子先生、  
脇本とき先生がおられます。今野タ  
イ先生は、冬期は北極から押寄せ  
て来る流氷に港が埋められ、船の往来  
も途絶えるオホーツク海に面した左

## 社団法人 日本女医会 第三十回定時総会のお知らせ

日時 昭和六十年五月二十六日(日)午後一時  
場所 京王プラザホテル

◎一六〇 東京都新宿区西新宿二二二一  
〇〇三三四四一〇一一一(代表)

なお、五月二十六日午前十時より評議員会が同ホテルで行な  
われます。

評議員ご欠席の場合は予備評議員(本部に届出のある方)がご  
出席下さい。

京王プラザホテルに宿泊ご希望の方は、お早めにお申し出での  
こと。その際、会員であることをお申し添えて下さい。

但し、二十五日はすでに満室と聞いております。

### 評議員及び予備評議員の改選について

昭和五十九年度総会(昭和六十年五月二十六日)において役員  
任期満了に伴う役員改選が行なわれます。

定款施行規則第二十六条により評議員は、役員改選の年の三月  
末日までに本部に必ず届出することになっております。

お手数をおかけいたしますが、各地区において評議員及び予備  
評議員(再任も可)を選出され本部に昭和六十年三月末日までに  
お届け下さい。

再任の場合も一応本部にご通知いただきたく存じます。

新評議員は、昭和六十年四月から六十二年三月までの任期とな  
ります。

庶務部

呂間湖の町で、お父上の代からの病院を受け継がれ、ご主人亡き後も孤軍奮闘しておられ、絹川タミ子先生は北海道の南端の無医村で村の母と慕われ、また首藤とき先生は永年保健所に勤続され、ともに褒章されました。

なお日本女医会の社会活動といいたしましては、会員にて各科を編成した医療班を作り、無医村の健康相談等に出かけ、行政からも大いに支援され、また受け入れ側からも大歓迎を受け、お芋を茹でてもらったりおにぎりの焚出しをしてもらったりで喜ばれた時期もありましたが、無医村も少なくなりましたのを境に、北海道に結成された「北海道健康を守る婦人のつどい」なる会の会長としての要望がありましたので、参加することになり、柴田サヨ先生、正宗恵先生が活躍です。

この会の内容は当初は結核予防、BCG接種の促進等でしたが、時の

### 東北地区

宮城支部 長池 博子

東北ブロックで私がご指名をうけたのは、私立優生保護相談所（優生保護法第二十二条厚生大臣認可による）を開設している点にあると考えたので、地域の母子保健活動の中で相談事業の機能の実態を報告させていただきます。

当相談所は長池産婦人科に隣接し、

流れに病気の移り変わりもあり、最近は癌検診、脳血管系疾患予防等に主力が変わりました。

今年、会ではいたしました行事、市民癌制圧大会は、会場市民会館のホールを埋め尽くす盛会でしたし、結核予防複十字シール街頭募金の際には、知事夫人も参加して下さり、また旭川大雪青年の家における結核予防講習会には、結核予防会総裁、秩父宮妃殿下のご臨席を得ました。

北海道における日本女医会の活動は以上のような次第ですが、私どもは女医の元祖、荻野吟子女史女医公許百年記念に際し、心を新にして、女史の渡道の地瀬棚の町に建設されてあります女史の顕彰碑に刻まれた、女史愛誦の「人その友の為に己れの命を損つるは是より大なる愛ハなし」の聖句を心に刻み、日本女医の嚆矢である女史の不朽の功績に感謝し尊敬し、その足跡を絶やすことなく守りたいと願うものであります。

仙台駅から五分、市繁華街との中間にあり、市内のみならず地方の人たちにも広く利用されており、そのデータは全国の平均的数値を示しております。

所長は医師で、ベテランの保健婦四人と緊密なチームを組み、第一次面接相談、第二次面接相談ならびに

診察を行ない、日曜祝祭日を除いて、毎日午前十時より午後四時まで。一人に要する時間は内容によって違いますが、一時間を越す場合も少なくありません。

対外的活動としては、公共団体、労働組合関係、各企業体、学校関係、社会教育関係ならびに地域婦人会などの依頼により「思春期教育」、「母性教育」、「家族計画」に関する啓蒙に役買っております。また定期的にデパートの「母と子の相談コーナー」に保健婦を派遣しております。

#### 利用状況

開設以来年ごとに相談者数が増加し、昭和五十二年には九百七十四名、五十八年には千四百六十八名で、延相談件数は年間三千近くになっていきます。

#### 相談内容分類と割合

- (1) 遺伝相談 (〇・四%)  
近親結婚の相談、結婚相手の家族に問題や不安がある場合、既往に障害児を分娩した人が次回妊娠に際して障害再発の危険についてなどの相談で、個人にとっては深刻な相談です。
  - (2) 家族計画ならびに受胎調節相談 (二五・五%)  
婚約中の者、分娩、流産あるいは人工妊娠中絶後に相談に来る者が多い。
- 一〇〇%の避妊法はまだないので、その人に適した方法を指導し、実行

## 告示

日本女医会定款第二十四条に基づき、来る五月二十六日(日) 京王プラザホテルにおいて、昭和五十九年度定時総会を開催いたしますが、同時に第十五条の規定により現役員任期満了に伴う役員選挙を行ないます。

なお、立候補の届出は定款施行規則第十九条により昭和六十年三月二十七日までに本部に必着のことを厳守願います。

#### (選挙に関する細則の抜萃)

第三条 定款第十四条に規定する理事は三十名〜三十五名とし、うち常任理事は十二名とする。

第七条 選挙人は、選挙の九十日前までの正会員とする。被選挙人は、入会后三年経た正会員とし、会費完納者とする。

第十九条 立候補者は選挙の告示があった日から選挙の日の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届出なければならぬ。

- 2 前項の届出書類は下記のものとし、日本女医会規定の用紙を用いることとする。
- (1) 立候補届
- (2) 規定の履歴書

立候補届出に関する書類は本部に用意してあります。お申し込みあり次第お送りします。立候補は自選のみです。

する意欲を持たせることが重要で、望む子供数を生み終えた後、閉経まで長期にわたる避妊と、低年齢の未婚者の避妊が今後の大きな課題と考へます。

(3) 妊娠中絶相談(八・一%)

中絶に関する不安や迷いを持って来談するが、既婚者の場合は避妊の失敗が多い。未婚者の中でも十代の妊娠が問題で、親に知らせていないのが六九%をしめ、相談相手が同年代の友人のため、社会的対応が未熟であることが問題をより大きくしています。

(4) 健康相談(一四・四%)

月経異常、月経不順、不妊、心身症、更年期障害、肥満、性器の異常不安、性病、成人病などで、とくに未婚者の月経不順は妊娠か否かの不安を抱えている場合が多く、性行動の若年化と時間をかけて説得する必要性を痛感します。

(5) 母親教室(一五・九%)

初産の場合は母親になる不安を解消し、妊娠、分娩、育児の知識を得させるべく、四回を一コースとし、十人程度の小グループに分けて相互話し合いをさせて妊婦同志の連帯感を高揚するように指導しています。

(6) その他の相談(三五・七%)

月経周期の変更(結婚式、受験、旅行などのため)、性生活の不調、不満などの悩み、若い人たちの無知による性の悩みやトラブル、近親相姦、産褥指導、育児相談など、(1)~(5)に属さない相談です。寿命が延びたこ

とや、生活環境の変化によって中高年の性相談が増えつつあります。

今後の課題

(1) 性行動が若年化することによって起こる未婚の若年妊娠、性病罹患の問題。十年間の当相談所の統計によれば、三分の二が未婚者であり、その中の三分の二は妊娠に関連のあ

群馬支部活動状況報告

群馬支部 岸 直枝

る内容の相談です。(2) 寿命が延長したことによって起こる中高年の性生活対応の問題。以上二点を今後の課題と考へておりますが、思春期の若者のために、また急速な高齢化を迎えつつある社会のために相談の窓口が増えることを切望するものでございます。

昭和五十五年春、日本女医学会の総会を本伊香保温泉で成功裡に終了した後の反省会の席上、私たちが医師という職業を持ちながら、主婦として母親として生きて来た経験を、何か地域に役立てることはできないだろうかという声が出てきました。

その時、近頃の社会経済の発展はめざましく日常生活が豊かになり、子供たちの身体発育は著しく促進化されてきている一方、性情報は氾濫し思春期の子どもたちもまた、自分自身の体や心の変化に戸迷い親子ともどもが悩みや不安を抱えて困惑しているのではないだろうか。などという話が出て、思春期の子供をもつ母親を対象として勉強会を持つという協力をしよう」と衆議一決され名称もマザーズセミナーということで発足することになりました。さて、そこで第一回は自治医科大学附属

病院長であり思春期にご造詣の深い松本清一先生を講師にお願いして、「思春期と月経」というテーマで開催されました。会場は予定の参加人員をはるかに上まわり、思春期における月経に対する正しい認識と理解が得られ、成功裡に終わりました。

第二回は男の子の性について、奈良林祥先生のお話しをうかがい男の子の性衝動をどう理解するかが解って来たような気がしました。前回におとらず会場は満員の盛況でした。第三回目はセミナーは体の変化が心の動きにさまざまな影をおとす思春期の子供たちを少しでも理解する事ができたらと、当時警視庁で少年補導の第一課で活躍中の江幡玲子先生を講師にお招きして、「思春期の心を理解するために」というテーマで研修をしました。

第四回は吉祥女子高校の山本直

英先生をお迎えし、現代の女子高校の姿とこれに対処する学校現場での性教育を中心に「女子高校生は、まじか」というテーマでお話しを伺いました。第五回は少し趣きを変えて、電話相談員の安達洋雅子さんから「もしも聞いて電話の向うの子供達」というテーマでのセミナーを五十七年六月開催しました。親にも教師にも誰にもいえない子供たちが、電話を通じて相談するその内容をうかがい、地域の子供たちへどんなふうに関与するの場を作ってやろうかと考へさせられたものでした。

一年に二回土曜日の午後の時間をとって以上のようなセミナーを開催して来ましたが、いずれの場合も受講生が多く、会場さがしや会の運営には頭の痛いことばかりでした。このような折、これら各方面の人たちが話し合い、五十七年十月、ぐんま思春期研究会が発足しました。

県女医学会も基本財産としてこの会に三十万円の資金を寄付した他、毎年本会基金の銀行利子を運営費として補助することにして、「ぐんま思春期研究会」を全面的に応援する事としました。

第六回目は昭和五十八年四月青少年会館で「親離れ子離し」というテーマで開催しました。講師はぐんま思春期研究会の幹事で精神科医の大須賀恒夫先生で日常の診療活動の中でみられている種々な相談事例のなかからのお話しでしたが、親離れの

時期に来ている思春期の子供を上手

に子離しのできない親がいかに多いかをしみじみと感じさせられました。第七回目は五十八年十二月十九日、現在問題になっている思春期未婚妊娠をテーマにして妊娠に至るまでの思春期少女の心の軌跡や、性行動、家庭とくに母親のあり方などを実際に少女たちの診療に当たられ、相談を受けてくださったの事例を持つ産婦人科医の小手良貞先生にお願いしました。

五十九年九月には、現在性教育に關してはわが国の指導的立場に於ける間宮武先生(共立女子大教授、日本性教育協会常任理事)をお願いして、「これからの性教育」と題して非常に有益なお話しを伺いました。

以上のようにマザーズセミナーも回を重ねるたびに地域の人たちから次は何をしてくれるのかと期待を持たれるようになって来ました。次回は十二月十五日、再び江幡玲子先生(思春期問題研究所長)をお迎えして「受験期の子供と母親の精神衛生、特に父親とのかかわりを求めて」というテーマで講演をいただく事になっております。

県女医学会の活動もどうやらぐんま思春期研究会への援助をする事により、地域へ根ざした業績をあげて来たように感じているこの頃です。そしてこれらの人たちのふれ合いが日常の診療業務を通して再び地域保健、地域医療へと役立ち、心身ともに健やかな子供たちの育成に協力できる事を心から念じております。

# 中部地区

## 愛知支部 森川みどり

各県それぞれ特色があり、支部長のご報告によって記させていただく。  
 \*静岡県 支部長 竹内静香  
 つねに次のことを基本理念として、事業を行なっている。

一、真の医療とは

二、女医として何をなすべきか

以上の趣旨のもとに年一回親睦をかねて真の医療の追求のためのコミュニケーション活動を行なっている。  
 昭和五十八年度は「ホスピス」について浜松聖隷病院の研修。

五十九年度は「ヒポクラテスの碑」の見学。碑は百年前に女医第一号の

荻野吟子が医術開業試験を当時の石黒軍医総監、ならびに長与専齋衛生局長に懇請した時に長与局長によって祀られたものである。なお吉岡弥生賞受賞者林富美子先生の講演、川野辺静先生も活躍中であり、支部としては一歩進んで積極的な活動を推進すべく検討中である。

\*長野県 支部長 星野礼子

他県に比し面積は二倍以上、会員数約四十名、北信と南信に分けて前者は長野市で後者は松本に集まって会合を催しているが、十名前後の出席で講師もお願いできなくて、筒井喜美代先生から人形を使って窒息患者の気道確保の実習を行なった。会

費納入について全会員宅を訪問して銀行引き落としとし、五十八年度の納入率を九十三%とした。南信では年一回「菊の会(聞くの会)」を催している。退会者、転出者の送別会、会員の用意を行なっている。

\*岐阜県 支部長 松波寿美

年一回親睦会を催している。

\*富山県 支部長 島田淳子

会はほとんど催していない。

\*石川県 支部長 米林梅子

会合は年二回内一回を総会として

いる。女医としての特性を診療面に生かせばそれでよいのではないか。

昭和三十二年支部結成、初代支部長荒井梅子、四十年から早稲田かめの、五十一年より現支部長、初代支部長の三回忌に支部長の遺徳を偲びゆかりの寺に観音像を寄進した。

\*福井県 藤田きぬ

日本女医会加入者の増加しない原因として、中央と支部との関連性を一考すべきではないか。支部会は年一回親睦会を開催、会員の動静は左々木待先生が「女医ひとりごと」を福井新聞に発表、畑きくみ先生は日本画に専念、笠原智寿子先生は医師会理事として活躍。

\*三重県 支部長 加藤正子

全然会合を催していない。支部長

も病気のため現在休診中。

\*愛知県 支部長 森川みどり

昭和三十八年設立、総会年一回。総会には特別講演として講師に皮膚科学中村敏郎教授、作家佐藤愛子、評論家藤原弘達、上坂冬子、日本女医会会長三神美和、同副会長山崎倫子(国連へ日本政府代表代理として出席して)、日本医師会理事の先生方を毎回お願いしている。定例理事会を毎月一回、役員選挙は二年ごとに在宅投票により行なう。国際女医会議には毎回参加して、演題も二回提出している。日本女医会総会は愛知で昭和四十一年、五十六年と二回開催。支部事業「婦人と子供の健康を相談する会」純潔教育を昭和四十年一月より継続中。その間、愛知県医師会、愛知県知事より表彰。昭和五十四年日本公衆衛生協会賞、厚生大臣賞受賞、その他身障者用移動トイレ、車椅子十脚寄贈、老人ホームヘルパーペンダン六百個持参、中途失明者の生活指導をしている。また年数回学術講演会、社保研修会を行ない、社保審査委員には昭和二十三年審査委員会の制定時より、一名任命され、現在は社保審査委員三名、国保一名、社保専任審査委員一名、社保指導委員一名、労災審査委員一名、各分科会の理事、委員にも多数参画している。なお行政への協力は名古屋市教育委員、愛知県環境部長、青少年婦人室長、青少年保護育成審議会委員、公害補償認定審査会委員、名古屋婦人会館育児相談(テレフォ

ンサービス)、名古屋中央図書委員および社教委員、等に会員が活躍している。愛知県医師会主催の一般向け健康教育講座にも講師を派遣、公開シンポジウムの司会、医師会の広報活動としてのテレビ番組にも女医会より出演している。

福祉活動は年一回レクリエーション

# 大阪地区

## 大阪7支部 大原 一枝

まず最初に郷土の先駆者で、吉岡弥生先生と東西にらび称された福井繁子先生の生涯について概略を紹介する。明治七年岡山県で出生、十五歳で上京、済生学舎に学び、明治二十七年二十歳で医師免許をとった後、大阪の緒方病院で産婦人科医として勤務の傍ら、産婆の養成につきし、また「妊婦のばら園」という解説書を著わした。明治三十八年、日露戦争の終結をまつてドイツマールブルヒ大学に留学、ドクトルメデイチーネの称号を得たのち、ジュツセドルドル国立病院に勤務。明治四十二年帰国後、大阪市東区で開業、盛業を極めたが、彼女はこれにあきたらず、昭和二年五十五歳の時、志を立て日本の学位に挑戦、開業の傍ら大阪大学医学部病理学教室において研究を行ない、昭和七年見事に医学博士(女性第三号)の学位を獲得した。

ン、および新年宴会、九月十五日の敬老の日に八十歳以上の先輩を表彰訪問して祝賀、弔事も会則に従い行なう。会報は昭和四十六年より年一回発行その他現在愛知県女医史を編集。限られた紙面のため、不十分のところはご寛容いただきたい。

これより前、大正元年一月関西女医会を結成(翌大正二年日本女医会雑誌創刊、さらにその翌年の大正三年日本女医会総会が開催されてい

る)、また戦後の昭和二十三年には至誠会、鶴風会、加多乃会の三同窓会出身者に呼びかけて、大阪府女医会を結成した(日本女医会再建第一回総会はこれより七年後の昭和三十年であった。昭和三十六年八十七歳で没

ついで故広瀬夫佐子(病院ボランティア協会を組織しボランティア運動推進)、肥塚典子(耳鼻科医として医療に従事)の傍ら、母と子を守る会を組織、地域住民の保健活動に従事)の二人はいずれも吉岡賞受賞。

須藤昭子——クリストロア修道女会に所属、西宮市、ついでカナダ・モントリオールの同会の病院を経て昭和五十一年ハイチ・シグノにある国立結核療養所の医師として現地人結核患者の診療に当たり、多くの困

わが国医育機関における女医の教職占有率 1983

機関	教職		
	教 授	助 教 授	講 師
80 大 学	34+(3) 3,640 0.93%	84+(18) 2,957 2.84%	145+(48) 4,234 3.42%
東京女子医大	24 111 21.62%	32 71 45.07%	25+(1) 102 24.50%
東 邦 大	2 56 3.57%	1+(2) 30 3.33%	2+(1) 65 3.07%
関 西 医 大	1 31 3.22%	5 40 12.5%	2+(1) 75 2.66%
東 京 大	0 64	0 60	3 113 2.65%
京 都 大	0 57	0 63	3 54 5.55%
大 阪 大	0 74	1 70 1.43%	0 62
近畿地方 12大学	2 493 0.41%	11+(2) 439 2.51%	11+(4) 578 1.90%
大阪地方 5大学	2 219 0.91%	8+(1) 202 3.96%	6+(1) 308 1.95%

(分子の( )内は他学部出身者)

難を乗り越えて病棟の新築、施設の整備、薬品の調達につとめ、数年ごと

柴田子子——兵庫県神崎郡市川町

出版。一開業医の地道で意欲的な活動として評価に値する。

岩崎和歌子——大阪市で眼科開業。南太平洋バヌアツ共和国へ毎年眼科医数名によるキャラバン隊を組織して住民検診、白内障手術等を行なっている。

ついで教職員関係では鉤スミ子大阪医大解剖学教授、鮫島美子関西医

大内科学教授、蔽内英子岐阜大細菌学教授の三教授が現職で活躍中であることを報告したのち、わが国における八十医育機関における女医の教職占位の現況を一九八三年医育機関名簿(中外製薬)によって集計した結果を表示した。

別表のごとく、全国的に女性教授は三十四名でこのうち実に二十四名が東京女子医大の女性教授である。教授総数のわずか〇・九三%を占めるに過ぎず、特殊事情にある東京女子医大を除けばこの率はさらに甚しく低くなる。そこでアメリカにおける現況は如何と文献を求めたところ、JAMA(日本語版、一九八二年三月号)に次の文献が目についた。「医学会における女性の地位」アリゾナ大医学部 Marys Harst Witte, M.D. (河北中央病院院長、早川浩之(訳)、これによると女性の医学会への参加はあまり歓迎されていない。

医学会の要職および正式の教授職は女性たちに充分門戸を開いてはいない。さらに女性が要職につくのには男性に比し二倍の年月がかかっている。このデータはここ十年間にわたる婦権拡張運動(国際婦人年を指す? 筆者註)によってすら何らの改善もなされていない。昔に比べて女医の数はふえているのに、リーダーシップをとる地位まで年功序列で上がっていない。その数がふえると思ふ事自体甘い考えと言わねばならない。雇用の際には女性の順番は一番最後で、解雇の際には一番最初の順番にたされる云々(以下略)。

以上のように日米ともによく似た状況が見られる。公許女医百年記念を機にわれわれ女医としてはより一層の努力と反省が必要であることを、茨の道を切りひらいた先駆者を偲んで改めて肝に銘ずべきである。

### 中国地区

中国地区を代表して私のような者がご報告させていただきますことは役不足で恐縮でございますが、簡単に申しのべさせていただきます。

中国地方は本州の西端で中国山地を境にして気候も交通の便も異なる五県からなっております。当地区における女医さんの活躍につき、県医師会を通じて各県の県医師会へご加入の女医数を開業医と勤務医に分けて調べていただきました。

次に各県ともそれぞれ大学の医学部がございますので、終戦後男女共学になりましてから本年までに何人くらいの女医さんが各県の大学で誕生なさっているかを併せて調べさせていただきます。

- \*岡山県
  - (1)県医師会加入女医数 一五六名
  - 開業医 八九名
  - 勤務医 六七名
  - (2)岡山医科大学附属医学専門部卒 (S 26~S 27) —— 一〇名
  - 岡山大学医学部卒 (S 28~S 59年) —— 二七〇名
  - 現在岡山大学医学部勤務者 —— 二九名
  - (3)川崎医科大学卒 (S 51~S 59年) —— 一一一名
  - 現在川崎医大勤務者 —— 二〇名

### 岡山支部 小川 富美

なお、大学勤務者は医局に席を置いて関連病院へ派遣されておられる方も多数おられます。

- \*広島県
  - (1)県医師会加入女医数 三三三名
  - 開業医 一六一名
  - 勤務医 一九二名
  - (2)広島県立医学専門学校卒 (S 26年) —— 二名
  - 広島県立医科大学卒 (S 27~S 30年) —— 二名
  - 広島大学医学部卒 (S 31~S 59年) —— 二九二名
  - 現在広島大学医学部勤務者 —— 三二五名
  - (3)広島女医の会 (S 55年3月発会) 当初会員 二七〇名
  - 現在会員 二二三名
  - 出身校 全国各大学
  - 総会 年一回、刊行雑誌 年二回。
  - 活動状況
    - (イ)献血前の検診奉仕
    - (ロ)レイイス・テレホンサービス (土曜日) 内容……主に精神科的と産婦人科的。
  - \*山口県
    - (1)県医師会加入女医数 一〇七名。
    - 開業医 —— 七五名
    - 勤務医 —— 三四名
    - (2)山口県立医学専門学校卒 (S 27年) —— 一名



山口県立医科大学卒 (S 28 ~ S 42 年) 一三二名。

山口大学医学部卒 (S 43 ~ S 59 年) 一三九名  
現在山口大学医学部勤務者 一三二名。

離島無医地区勤務 / 山口県光市 沖牛島 朴 貞信先生 (東京女子医専十二年卒)。六年前より勤務になっており、お電話で伺いましたら、人口三〇〇名ばかりの過疎の離島の由、島民の方にも感謝されておられるようでございます。

\*鳥取県

(1) 県医師会加入女医数 五二名  
開業医 二九名  
勤務医 二三名

(2) 島根医科大学卒 (S 57 ~ S 59 年) 一三六名

気候も地の利も悪く、花田支部長様にお伺いしましたところ、皆様それぞれハンデイに屈せず、地区で十分な活躍をなさっておられるとの事でございます。

\*鳥取県

(1) 県医師会加入女医数 六一名  
開業医 一九名  
勤務医 四二名

(2) 鳥取医専ならびに鳥取大学医学部卒 一四四名  
現在、鳥取大学医学部勤務者 四九名

現在当県に残って活躍中の方は少ないですが女医の卒業生は多く、全国各地で活躍のことが存じます。十分な資料も得られず、

簡単ながら、以上報告させていた  
だきました。

次に私ごとでたいへん恐縮でございますが、荻野先生に続けと苦勞を重ねた末、大正四年女医となり、東京で開業して昭和十一年五十歳の若さで癌で亡くなった私の亡母をご紹介させていただきたいと思ひます。母の亡くなりました折、まだ十五歳でございましたので、母の想い出は薄く資料も空襲で失ってしまいましたのでおぼろな記憶を便りに亡母につきまして少しばかりお話をさせていただきます。東京女子医大の「吉岡弥生資料館」で調べていただきましたところ、記載はございませんでしたが、弥生先生の学校にも席をおいたことがございますよう、弥生先生はじめ、皆様と一緒にうつつした写真がございます。しかし、その後日本医学校へ移り、そこで大正四年七月免許取得との記載が日本女医誌ののつておりました。

浜松の片田舎の農家に生まれた母は、心に決することがあり十八歳で家出して上京、旧華族のお邸の小間使い等をしながら、旧制の尋常高等小学校卒という学歴のハンデイにもめげず、頑張つて初志を貫いたようでございます。資格取得後は結婚しましてロシア語の通訳の軍属として、ルモイで勤務した父と一緒に北海道に渡り、札幌で三年ほど開業いたし、その後は東京の角筈で生涯を閉じるまで内科、小児科、産婦人科を開業しておりました。赤い門燈のついた

家で、袴をはいて黒いカバンをもつて往診に行っていた母の姿を懐かしく思い返しております。幼かった私の想い出の中の母は、「医は仁術なり」をそっくりそのままで行っていたような診察ぶりでございます。女医になって二十年あまり、地域の人と心から融け合いひたすら誠心誠意医療のためにつくしながら、思い半ばで子供たちの成長もまたずいぐなつた母が、さぞ無念であったことと気の毒でなりません。亡母が女医

四国・九州地区

主として四国関係

高知支部 小出つる子

金倉トク先生 / 明治四十四年卒業 香川県 (故人)。  
藤田小冬先生 (旧姓室住) / 大正二年卒業・徳島 (故人)。  
宮地国栄先生 (旧姓菅野) / 大正三年卒業・高知  
坂元八千代先生 (旧姓許斐) / 大正五年卒業・九州。東京で開業 (故人)。  
徳直直喜先生 (旧姓前田) / 大正五年卒業・高知 (健在)  
神戸美和先生 (旧姓吉川) / 大正五年卒業・宮崎県。

等が東京女子医専を卒業された古い先生方です。また大正四年医学資格取得、大正九年十二月五日帰高された横島千代子先生などがあります。大正六年頃までは卒業生の数も、

を志した心よりどころはきつと荻野先生はじめ、ご立派な先輩の女医の方たちのお姿だったと今さらのごとく先輩諸先生方の偉大さを痛感いたしております。

今日この席で皆様の前にご紹介させていただきます機会を得まして、亡母も心より喜んでおりますことと、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

由になってから、ずっと年一冊の会誌を発行しておりますので、現在三十二号となって、県内の女医さん方がお互いに顔や性格を知り合つて親しくしておりますし、趣味の会や、研修会も独自に持つて交流しておりますが、これはすべてなくなつた宮地先生の努力のためものです。県医師会の広報誌に女医さんの名が出ますと、必ず女医会の庶務の人が中心となつて、誰か近い人が会誌を持つて訪問し入会をすすめますので、一時的に新高した女医さん以外はほとんど入会しておられます。県医師会では女医会を重要視して下さつていますが、それはある県医師会会長の言葉がよく表わしています。「高知県女医会は何か事が起きるとただちに凝集反応を起こして事にあたるので強い」と、すなわち県医師会の理事や会長選挙ともなると、女医会の意向を大切にしないと落選するといつた意味も含まれているようです。

戦前より戦中も、物資のない時などもとぎれることなく交流し、親交を温めつづけ医師会内でも、一つのジツツを保ち尊敬される基をきき、かつ全員をよくまとめて、福祉事業の後援や野中婉女の事跡を周知したり、四国女医連合会も十二年前から高知県が言い出して、発足させ、充実した四国の女医の発展を、協力し合つているのが現況でございます。(五十九年八月には徳島に集まり、女医会連の提灯を先頭に四十名が阿波踊りをしました)。宮地先生は名

利を求めず県下女子教育にも熱心な方でございます。

時間がありましたら、宮地先生が吉岡先生のおすすめにより、当時ドイツ潜水艦の出没はじめた大正五年貨客船にてビルマへ渡られ、その頃渡航することじたい大変な事だったのですが、まして若い女性(同行三名で)が外国へ行くという事は大した事だったので、ビルマでは

### 第七回学術講演会の報告

貴賤上下を問わず婦人を診療なさり、貴族の一家からはいそが大切にされ、向うの服装でその一家と写真が写されていたのを見せていただきました。女性にしか肌をみせてはいけぬ規のあるビルマ女性の、治療と健康管理に活躍された事など、大いに話したく存じますが、今回は以上をもって私のお話とさせていただきます。

#### 学術部 橋本 葉子

去る十月二十七日(土)、第七回学術講演会が愛知県岡崎市で行なわれました。今回は岡崎国立共同研究機構・生理学研究所教授の江橋節郎氏に「カルシウムイオンと生命科学」という演題でご講演をお願いいたしましたので、この機会にと生理学研究所の見学も企画いたしました。幸い、生理学研究所のご好意で、土曜日の午後であり七十六名参加という大グループであったのにもかかわらず、気持ちよく所内を見学させていただきました。午後二時から三時三十分までの予定で、まず共同機構の概要の説明と、生理学研究所内各グループの研究内容についての紹介ビデオを見せていただいた後、三グルー

プに分かれ、お互い順路を変えて所内の見学をいたしました。あまり時間がなかったこともあり、所内全部を見せていただくことはできませんでした。江橋教授研究室、超高压電顕室、動物飼育室等を見学させていただきました。日本のNIHたらんとしていただけに、最先端の技術や機器を見せていただき、参加された方は溜息をつきながらも興味深く見学されたことと思います。

午後四時から会場を名鉄岡崎ホテル葵の間に移し、江橋教授のご講演を拝聴いたしました。ご講演の内容は後でご紹介いたします。参加者の大部分が学園を離れてから長い月日を経ておられましたが、最新のカル

シウムイオンについての分りやすいお話は、感動をもって受け入れられたことと思います。

午後五時を少し過ぎてから次の間で懇親会をいたしました。文化勲章受賞者であられる江橋教授とご一緒に記念写真を撮られた方も多いと思います。和やかに歓談する中に、六時になってしまい、最後は少し慌しく解散になり、申し訳ございませんでした。後日、参加された方々のご感想を伺いますと、皆、非常によかった、有意義であったと講演会を評価して下さいました。この講演会を企画いたしました学術部といたしましては、責任を果たせて嬉しく存じております。来年はまた企画を新たに、皆様多数のご参加がいただけますよう、努力いたすつもりでございます。

#### ●江橋節郎教授講演内容

##### 「カルシウムイオンと生命科学」

現在アメリカ生化学会で発表される演題の一五〜二〇%はCaイオンに関するものであるが、二十五年前までは生化学者はCaイオンを信用せず、Mg ATPですべてを説明しようとしていた。これは一九世紀にCaは沈降炭酸石灰等が神経によく効くということと使われたため、Caは肩唾ものであろうと考えられていたからである。事実、一九六〇年二月にアメリカの友人に「お前まだあのクレ

イジーなCa説を信じているのか? お前は将来有望なのだから、二度とCa説は言わない方がよい」と注意されたものである。しかし一九五九年以降Caイオンの問題は、日本人が学問の分野で外国の研究者と対等に闘える領域である。これからはCaイオンに関して歴史的な経過を追いながら話を進めたいが、どうしても筋肉の話になってしまつたのでご了承願いたい。

骨格筋の機能は、収縮、熱発生、および代謝調節である。骨格筋は構造が美しく、収縮という動きがあるので、科学者の興味を引いたのである。すでに二世紀にGalen (131—201) (ローマ皇帝 Aurelius の侍医で、実験生理学の開祖と言われている人)は、(1)骨格筋は一方が収縮するときは、その拮抗筋は弛緩する。(2)各筋は単一の能動的運動のみを行なう(ユニットの考え方)。(3)脳筋に伝わる精気説等を発表している。この精気説はルネッサンスを超えて十八世紀前半まで伝えられ、悪影響を与えている。ついで、Galvani (1737—1796) は生体電気を発見している。Volta は Galvani との論争から金属が水に触れると電位を発生することを主張し、いわゆる Volta 電池を組むことよつてこれを証明した。生体電気に関し Galvani の原著記述ははやけたものであるが、電気生理学と電気物理化学の二つの領域を拓いたことは事実で、

その功績は忘れることができない。一八六八年には Kühnes ミオシン myosin を発見、一九二九年には Lohmann と Fiske が別々に ATP を発見した。一九三九年 Engelhardt 夫妻はミオシンが ATP エースをもつことを発見、つづいて一九四〇年に Lipmann は、ATP はすべてのエネルギー源であるという、有名な総説を書いている。ついで Szent-Györgyi という偉大な研究者により、骨格筋の生化学の基礎が作られたのである。

Ca イオンに関しては、一八八三年 Ringer が心臓の実験をしていたとき、水道水つまりテムズ河の水に食塩を加えて灌流液として使うと心臓は動くが、蒸溜水では止まってしまうことを見出し、テムズ河には Ca イオンが含まれていることを発見、心臓の活動保持には Ca イオンが大切であることを主張した。これにより後にリンゲル液を生み出したのである。一九四〇年には Heilbrunn が蛙の縫工筋 M. sartorius の両端を切断し、Ca 溶液に浸すと収縮することを観察、一九四三年には鎌田・木下が骨格筋細胞内へ Ca イオンを注入すると収縮することを発見、Heilbrunn とともに細胞内 Ca イオンの重要性を主張した。しかし Ca イオンの筋細胞内の役割が一九五〇年代の終わりまで正しく評価されなかつたのは、時代の潮流のアクトミオシン—Mg—ATP 説の成功があまりにも華々しく、しかもこの系が Ca イオンを必要とし

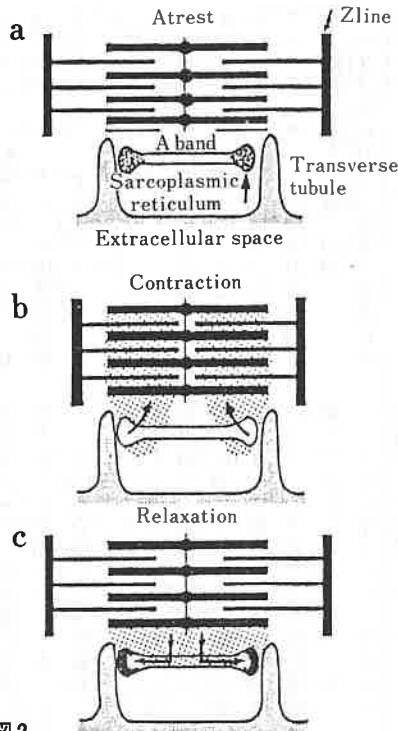


図2 sarcoplasmic reticulum: 筋小胞体  
transverse tubular system (T-system): 横行小管系  
↑ (終末槽 terminal cisterna)

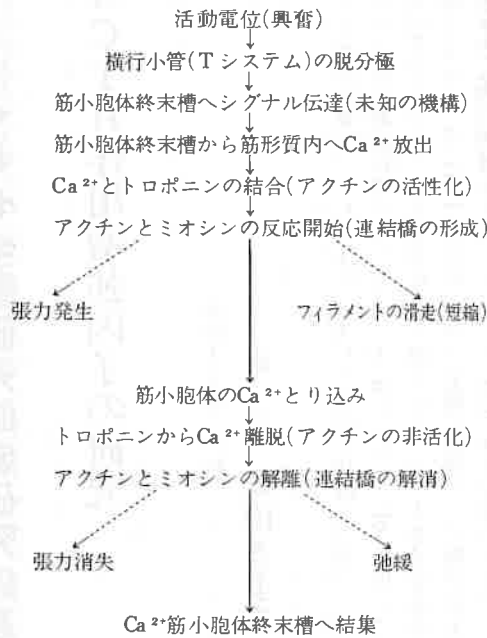


図3

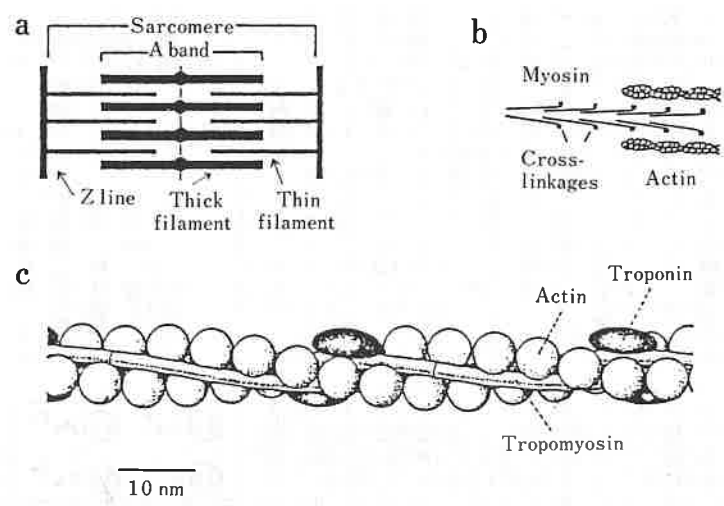


図1 thick filament: ミオシン myosin  
thin filament: アクチン G-actin

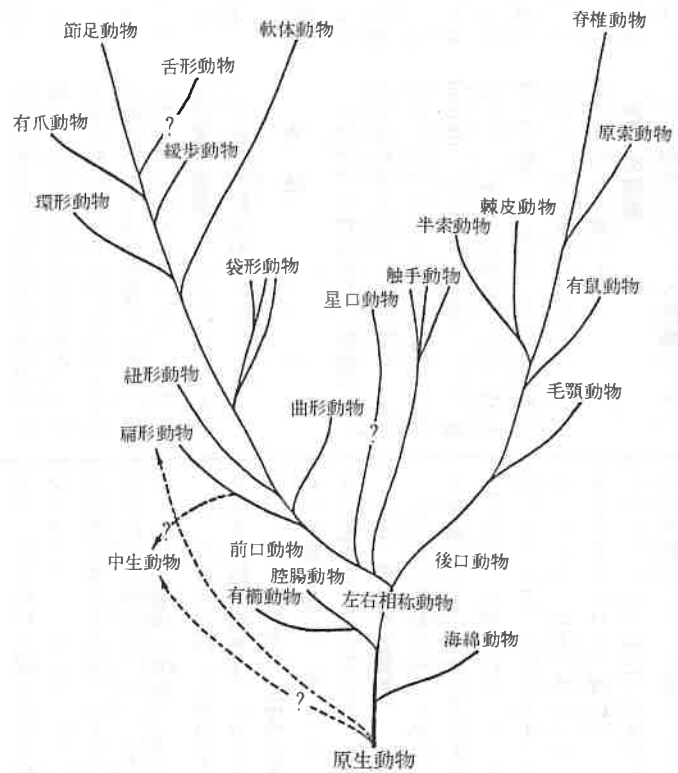


図4 動物諸門の関係を示す図(内田原図)

図1は骨格筋の微細構造を模式的

なかつたことによると思われる。  
一九五七年 H. E. Huxley は電子顕微鏡学的に、A. F. Huxley は筋力学的に、骨格筋の収縮に関する「Sliding theory」を提唱した。  
一九五八年江橋はキレート試薬のEGTAが他のキレート剤と比較にならない位グリセロール筋を強く弛緩させることを見出した。翌一九五九年江橋はロックフェラー研究所において $10^{-7}$ M Ca (バケツにチョコレートの粉がほんの少し入ったくらい) が骨格筋のアクトミオシン系を収縮させることを確認、弛緩因子 relaxation factor は筋小胞体で、筋小胞体がCaイオンを再吸収することを見出した。このときCa説に確信が持てたのである。しかし純粋なアクトミオシンはCaイオンと反応しないことが分かり、第三のプロテインシステム、すなわち、トロポニン troponin とトロポミオン tropomyosin の発見へと発展し、一九六九年Ca説のモデルを提出した。それは(1)収縮系にCaイオン感受性を与えるのは、アクチン上に存在するトロポミオンおよびトロポニンである(図1参照)。(2)トロポニンはCa受容体であり、そのアクチンへの作用はトロポミオンを介して行なわれる。(3)トロポニンの主作用は、Caイオン不在下にアクチンを非活性化することにあり、Caイオンはこの抑制を解除するものである。Caイオンは一種の de-repressor である。

に示したものである。aはアクチンとミオシンの配列を示したものの。bはアクチンとミオシンの構造の詳細を示したものの。cはアクチン、トロポミオシンおよびトロポニンの関係を示したものである。

図2は収縮に関する三訂説を模式的に示したものである。aは静止時、bは収縮時、cは弛緩時におけるアクチンとミオシンの関係およびCaイオンの出入りを示している。

図3は収縮および弛緩の諸過程を簡単に示したものである。

トロポニンと進化との関係を動物の系統発生樹(図4)でみると、トロポニンはホヤ(原索動物)より高位の動物および甲殻類(節足動物)には存在するが、貝類(軟体動物)には存在しない。例外的に線虫(袋形動物)にはトロポニンの存在が認められている。

一方、一九六七年小沢らはグリコーゲン分解酵素の一つであるフォスフォリレース・6・カイネースの活性化がCaイオン依存性であることを発見、代謝系においてもCaイオンの役割が注目されるようになった。

このような経過をたどって、一九七〇年垣内はCa依存性モジュレータ蛋白質(Ca結合蛋白)を発見、W. Y. Cheungは垣内とは独立に、同一蛋白質をカルモジュリン Calmodulinと命名し、現在はカルモジュリンの名称が広く使用されている。カルモジュリンは非常に多くの酵素活性を調節するが、酵素だけでなく、アクチンフィラメントなど細胞骨格にも、カルモジュリン結合蛋白を介して作用することが知られている。トロポニンはCa結合蛋白として最初に発見されたが、これ以外にも多くのCa結合蛋白が次々と発見されている。細胞外液のCa濃度は10<sup>-7</sup>Mなのに、細胞内は10<sup>-7</sup>M以下と低く、刺激が細胞内Ca濃度を増加させ、種々のCa結合蛋白を介してさまざまな細胞機能を調節していると考えられている。

一九八〇年から八一年にかけて、西塚はその発見になるプロテインカイネースCが癌化の促進物質によって活性化されることを見出した。この酵素はサイクリックAMPと別個のメッセンジャーシステムである。以上、生命のあらゆるところにCaイオンは介入している。活動電位の発生機序も、神経軸索、骨格筋、心筋に関してはNaイオンが主役をなしているが、その他の組織ではむしろCaイオンが主役であることが明らかになってきている。周期律表の中で四個のイオンは図5のように固まって存在し、この中で生命が作られている。このことは、生命の起原を考える上でも十分に考慮されねばならない。Caイオンは決して筋肉だけの問題ではなく、生命の根源にあるもっとも重要な制御因子であることが明らかになってきたのである。(文責・橋本葉子)

11 Na <sup>+</sup>	12 Mg <sup>2+</sup>
19 K <sup>+</sup>	20 Ca <sup>2+</sup>

図5

ラット下垂体前葉に、それ自体ではステロイド産生刺激作用をもたないが、ACTHのステロイド産生刺激作用を増強する因子(ACTH-Potentiating Factor: APF)の存在を明らかにした。さらに本因子が下垂体前葉以外の臓器、大脳甲状腺、胸腺、肺、肝臓にも存在することを認めた。ブタ胸腺の抽出液中の本因子活性をもつ分画には、下垂体前葉とは異なってACTH活性がないため、APF作用効果を認識するのに好都合であり、ブタ胸腺を研究対象とした。

# ACTH作用増強因子の研究

中 学 術 研 究 助 成 研 究 経 過 報 告

大阪大学第二内科

助 手 飯 田 さ よ み

沈した上清を試料とした。

(1) Bio Gel P-10を用いてゲルろ過を行なった。大分子分画から小分子分画にかけて、三個のピークとしてAPF活性が認められた。

(2) 小分子分画のAPFをCMセルロースを用いた陽イオン交換クロマトグラフィーを行なった。APFは荷電が異なる状態で存在し、等電点が四・六四以下、六・六七、六・六七以上と考えられる。

(3) 等電点が四・六四以下のAPF分画を逆相高速液体クロマトグラフィーにて分離した。APF活性の認められる分画は、単一ではなく、microheterogeneityがあった。

## APFの性状の検討

APFの性状を知るために、蛋白質分解酵素によるcarboxypeptidase Y (CY) 処理を行なった。CY処理によりAPF活性は消失した。このことより、APFはペプチドであると考えられる。既知のペプチドホルモンに、APF活性が有るや否かを検討した。対象としたのは、TRH, LH-RH, CRF, TSH,

FSH, LH, GH, prolactin,  $\gamma$ -MSH, vasopressinであるが、いずれにもAPF活性は認められなかった。APFの作用機序

蛋白分解阻止剤であるbacitracinあるいはテラジロールの存在下でも、APF活性は認められた。APFの作用機序は、ACTH-(1-24)の分解阻止によるものではないと考えられる。

## 結 語

ラットおよびブタ下垂体前葉、大脳、甲状腺、胸腺、肺、肝臓にACTH作用増強因子が存在する。APFはペプチドであり、heterogeneousな形で存在する。構造決定には至っていないが、既知のペプチドホルモンではないと考えられる。その作用機序は、ACTHの分解阻止によるものではない。

## 考 案

APFの生理的意義は、現在のところ明らかではないが、副腎皮質におけるステロイド産生が、一義的にACTHに依存しているとする従来の内分泌学の考えに、重大な疑問を提起するものである。今後、APFの構造決定をすることともに、ヒトでの存在を検討し、生理的意義を考えたいと思つた。

# 脳ドパミン受容体の病態に関する研究

神戸大学医学部薬理学教室

教授 田中千賀子

中枢ドパミン(DA)レセプタはアデニル酸シクラーゼ(AC)と共役するものをD<sub>1</sub>レセプタ、共役しないものをD<sub>2</sub>レセプタの二種類のサブタイプに区別されることがKebabianらによって提唱された。下垂体間葉細胞においてDレセプタの刺激によるcAMPの増加はD<sub>2</sub>アゴニストによって抑制されることからACとの抑制性関連が示唆されている。脳スライスにおいてDAによってcAMP遊離量が減少するという事実も脳内にもACを抑制するグアニンヌクレオチド結合蛋白(GN)が存在し、D<sub>2</sub>レセプタの受容した情報を伝達する可能性を示唆している。われわれはNiをADP-リボシル化し、機能を失わせる百日咳毒素inlet-activating protein(IAP)を用いて、線条件D<sub>2</sub>レセプタがNiと共役しているかどうかを、証明しようとした。ウシ線状体のシナプス膜分画をIAPで処理すると分子量約四万の蛋白がADP-リボシル化され、Niのサブユニットが存在することが同定された。IAPで処理したシナプス膜で [<sup>3</sup>H] spiperone

結合はB<sub>max</sub>およびK<sub>D</sub>はいずれも変化がなかったがD<sub>2</sub>レセプタのGTP効果は消失した。すなわち、IAPによってD<sub>2</sub>レセプタはNiに情報を伝えGTPによって親和性を変化させることができなかつたのである。GTPによってD<sub>2</sub>レセプタはアゴニストに対する親和性が低下することが知られているが、分子レベルでの制御機構は明らかにされていない。このようなレセプタの機能単位の分子量を測定するために、radiation inactivation(RIA)が用いられる。親和性の異なるD<sub>2</sub>レセプタが同じ大きさなのか、あるいは違う分子量が対応するのかをRIAを用いて解析した。60Coによりγ線照射したシナプス膜標品におけるアノタロニストである<sup>3</sup>H-spiperone結合のRIA curveは非線形であり二つ以上のcomponentの存在が推定された。二つのcomponentの存在を仮定して、回帰分析を行なうと、分子量約一五〇万と約一十萬のtarget sizeのレセプタの存在が示唆された。アゴニストである<sup>3</sup>H-

# MWIA ニュース

国際連絡書記

山崎 倫子

MWIA 第二十回国際会議がイタリーのソレントで開催されることに決定したことはご案内の通りです。会期は一九八七年四月二十七日から五月一日までです。詳細なお知らせは時期早尚と思いましたが、日本からもほとんど論文をお出しいただきたく、その準備のために具体的な内容について、現在分かっている範囲でお知らせいたします。

テーマ The Adolescence: Medical and psycho-social aspects. 青春期的、医学的および心理的、社会的様相。

一、青春期の定義、青春期とは何歳から何歳までを指すのか。

二、異なる文化の中における青春期的概略

- (1) 歴史の概略
- (2) 工業構造の普及する社会
- (3) 農業構造の普及する社会

NPA 結合の RIA curve は直線であり分子量約一五〇万の size を持つ単一の component であることが示された。GTP によってアゴニストへの親和性が低下する GTP 効果を指標として RIA を行なうと <sup>3</sup>H-NPA 結合と同じように、単一の compo-

- (4) 都市化
- 三、青春期の生理

- (1) 成長論 (Auxology)
- (2) 内分泌
- (3) 青春期男女におけるホルモンの役割をどう測定するか
- (4) 性的能力

- 四、青春期の心理
- (1) 心理的発達
- (2) 自己認識のメカニズム
- (3) 個性化のプロセス

- 五、青春期の病理
- (1) 性病
- (2) 形態学的相伝 (Morphological deviation)
- (3) 一般的ホルモン障害
- (4) 性的相伝 (Sexual deviation)
- (5) 諸器官の病理
- (6) 精神病理

- 六、青春期と社会
- (1) 家庭
- (2) 学校
- (3) 集団
- (4) ファッション
- (5) マス・メディア
- (6) 孤立と排除
- (7) 逸脱
- (8) 薬物
- (9) 暴行
- (10) 犯罪
- (11) 法律
- 七、予防と回復
- (1) 衛生教育
- (2) 栄養
- (3) スポーツ
- (4) 医学的干渉 (Medical intervention)
- (5) 教育学的干渉 (Pedagogic intervention)

これらの結果から、D<sub>2</sub>受容体蛋白単独ではアノタロニスト(抗精神病薬)とは結合し得るが、アゴニスト(DA)に対して高い親和性を持つ

演題をお待ちします。抄録提出の最終期限は一九八六年三月末日です。には、GTP 結合蛋白等との間に分子量約一五〇万の oligomeric な複合体を形成することが必要であることが示唆された。精神分裂症脳で D<sub>2</sub> 受容体の増加が知られているが、D<sub>2</sub> 受容体分子調節機構は解析されておらず、今後の研究課題であろう。



会員の消息

\*藤井傳子 (文京支部) 東女医・昭和26年卒

中国医科学院基礎医学研究所より招請により、医学部学生および、研究所職員に対する講義(内分泌学、とくにCa代謝調節ホルモンを中心に)のため昨年12月8日より一週間訪中、その任を果たされた。

\*山崎倫子 (都下支部)

理事会議事録

日時 昭和59年9月22日

場所 日本女医学会 会議室

出席者 (敬称略)

- 三神、小俣、福永、山崎、稲葉、久保田、佐藤、佐野、白橋、橋本、平瀬、森川、八木、柳瀬、明石、荒木、石川、石原、川島、鈴木、藤井、町田、三好、添田、西山、山口

欠席者 (敬称略)

- 野沢、丸山、井上、鶴川、川口、関口、野呂、蓮井、藤田、マツキ、ンストリ、森、山本。

庶務報告

7月19日 NGO国内委員会総会

東女医・昭和18年卒

第39回国連総会に政府代表代理として出席され、その報告会が昨年12月22日国連NGO国内婦人委員会主催により、代々木婦選会館で開催された。

\*柳瀬路子 (世田谷支部)

東邦医・昭和12年卒

先生には、カナダにおける国際女医会出席に際し、国際女医会へ一万ドルの寄付をされた。

この消息欄へ各支部からたくさんの方の先生方のご紹介をお待ちしています。

(広報部)

に山崎副会長、柳瀬常任理事出席。

7月21日 常任理事会開催

7月29日~8月3日 第19回国際会議に日本より七十七名出席。

8月1日 日本女医学会誌九十九号年金パンフレット、会費請求書

振込用紙発送。

8月28日 日中医学協会募金委員会へ三神会長、丸山常任理事出席。

広報部開催

その他

(1)女子医学教育の先駆けとして、東京女子医科大学の紹介と老人福祉週間のキャンペーンに広告掲載をする。

(2)国際女医会五十年会員表彰者よ

り礼状多数あり。

(3)故原田光子先生ご遺族より香典の礼状あり。

(4)東京女子医大無医地区研究会より栃木県那須町での一年目の検診終了の挨拶状あり。

(5)渋谷二丁目祭りに際し、祝儀(三〇〇〇円)をする。

(6)昭和59年国民衛生の動向(一六五〇円)を購入する。

連絡事項

(1)大学婦人協会より一九八四年「国際理解と協力」セミナーの案内

関西セミナー 日時 昭和59年10月13日(土) 14日(日) 場所 関西学院千刈セミナーハウス

関東セミナー 日時 昭和59年10月27日(土) 28日(日) 場所 国立婦人教育会館

(2)東京都生活文化局より婦人問題推進地域会議について

日時 昭和59年10月19日(金) 場所 神奈川県立婦人総合センター

(3)東京都生活文化局より「国連婦人の十年」世界会議に向けての全国会議への参加について

日時 昭和59年11月22日(木) 場所 東京・九段会館

會計報告 7月、8月分別紙どおり報告

承認

議題

一、学術研修会について

とき 昭和59年10月27日(土) 午後二時

ところ 見学/岡崎国立共同研究機構。午後二時~三時半。生理学研究所。パネル表示前集合。

講演・名鉄岡崎ホテル12階莖の間。午後四時~五時

「カルシウムイオンと生命科学」岡崎国立共同研究機構生理学研究所 教授 江橋節郎先生

懇親会・名鉄岡崎ホテル12階莖の間 午後五時~六時。会費 五〇〇〇円。

交通機関 東京方面からは新幹線こだまで豊橋乗りかえ、名鉄にて東岡崎下車。

関西方面からは新幹線ひかりで名古屋乗りかえ、名鉄にて東岡崎下車。

二、公許女医誕生百年記念行事について

とき 昭和59年11月10日(土) 午後二時

ところ 京王プラザホテル(東京)五階 コンコルドC

講演 午後二時十分~二時五十分 「荻野吟子について」

順天堂大学医史学助教授 酒井シツ先生

各地区における女医の活動状況報告 午後三時~五時二十分

荻野吟子賞について 日本女医学会員であって日本女医

会に功労のあった者(日本の女医のため)。

荻野吟子賞審査委員の選出

会長、副会長、各部から一名ずつ計十名。

会長 三神美和

副会長 小俣喜久子、福永ひろ子、山崎倫子

庶務部 久保田くら

会計部 丸山美実

学術部 藤井傳子

事業部 白橋美笑

広報部 八木貞子

渉外部 柳瀬路子

懇親会 午後五時三十分から 会費 一万円。

式典および懇親会の進行係を下記のとおり決定する。

司会 久保田くら

講演者紹介 小俣喜久子

各地区における女医の活動状況報告者の紹介 川島富久子

閉会の辞 福永ひろ子

懇親会 事業部担当

三、日中医学協会財団法人設立について

西洋医学を基礎とする現代の我が国の医療態勢においては、中国の伝統的文化と英知とに学ぶところが多い。

この度、日中医学協会から財団法人日中医学協会設立の募金の依頼あり。財団法人日中医学協会設立の基本財産とする。募金期間 昭和59年9月~昭和60

年6月末

個人的または一般社で寄付金の可能な方を紹介する。

四、その他

(1) 東京都支部連合会よりの依頼について

科学博参加準備のための役員会に関するコピー費用について、現物償還、金銭償還いずれも必要なしと決定する。

(2) リッカーミシン(株)との商品販売について

今回の注文に限り受付し、以降は商品特約販売の契約更新をしない。

(3) 宋慶齡日本基金会設立について  
中国国家名誉主席宋慶齡女士の功績を次代に伝えるための寄付金依頼に対しては否決する。

(4) インドシナ難民を助ける会、チャリティーコンサートについて  
日時 昭和59年10月24日(水)  
午後七時。

場所 昭和女子大学人見記念講堂

当会としての出席を決定しないが、個人的に協力できる方は願

「悔いありてこそ」定価 千円

三神美和著

発行所 山手書房

〒112 東京都文京区後楽

二二二一〇

☎03(八一五)七四八六

申込みは事務局でも受付けます

う。

(5) 日本キリスト教婦人矯風会かけこみセンター設立募金について

女性の人権を侵害する社会の矛盾にとりくみ、世界の平和を目指して活動を続けているが、「かけこみルーム」を改築するための募金の依頼に対し否決する。

(6) 「太陽と緑の週」休暇制定実現について

4月29日〜5月5日までの間を「太陽と緑の週」として設定し、連続した休暇とするための提唱には賛同しない。

国際女医学会第十九回国際会議報告  
昭和59年7月29日から8月3日までカナダのバンクーバーにおいて国際女医学会議開催。

(1) 会議参加者 計五八〇名  
アメリカ 一三〇名、カナダ 八〇名、日本七七名、韓国六四名、他。

(2) 演題 計九九題  
日本から二題

(3) 国際女医学会員一人当たり六スイスフランに値上げされる。(現在五スイスフラン)

(4) 国際女医学会五十年継続会員として日本から一一九名表彰される。

(5) 第二十回国際会議は一九八七年4月26日から5月2日までイタリアのソレントで開催予定。

(6) 第二十一回国際会議は、韓国ソウル開催と決定。

(7) 佐野アヤ子先生が国際女医学会名譽会員となる。

以上

久保田くら

荻野吟子賞審査委員会(昭和59年10月3日開催)において大村ひさゑ、川那部喜美子両氏に第一回荻野吟子賞を授与することに決定いたしましたので、報告いたします。

常任理事会議事録

日時 昭和59年10月27日

場所 名鉄岡崎ホテル

出席者(敬称略)

三神、小俣、福永、久保田、佐藤、白橋、野沢、橋本、丸山、森川、八木、柳瀬。

欠席者(敬称略)

山崎、稲葉、佐野、平瀬。

庶務報告 久保田常任理事

9月21日 国際婦人年連絡会へ柳瀬常任理事出席。

9月22日 理事会開催。

9月25日 広報部会開催。

10月3日 荻野吟子賞審査委員会開催

10月5日 国際婦人年連絡会へ柳瀬常任理事出席。

第七回学術研修会および公許女医誕生百年記念行事のお知らせ。

岡崎国立共同研究機構案内、ルーベンタンパンフレット、「悔いありてこそ」紹介状、会費請求書、振込用紙を全会員へ発送。

10月9日 第三十九回国連総会政府代表代理山崎倫子氏歡送会へ柳瀬常任理事出席。

以上

久保田くら

10月16日 広報部会開催。  
10月18日 チュニジア共和国首相夫人を囲む会へ柳瀬常任理事出席。  
その他  
(1) 高峯一世氏より厚生省大臣官房審議官就任の挨拶あり。  
(2) 故菅沼シヅ先生ご遺族より香典の礼状あり。  
(3) 渋谷二丁目祭礼委員会より祝儀の礼状あり。

連絡事項

(1) 労働省より昭和59年度婦人労働運動の重点

イ 男女の均等な機会および待遇の確保の促進

ロ 同一労働における男女同一賃金の徹底

(2) 日本母性保護医協会より第二回国際母性新生児保健学会の案内あり。

期日 一九八四年11月23日(金)  
25日(日)

会場 チュニジア共和国 スー  
ス・モナスティール

主題 ハイリスク妊婦、新生児の管理

(3) 国連婦人の十年世界会議開催のお知らせ

NGO会議期日 一九八五年7月9日〜17日

政府間会議期日 一九八五年7月15日〜26日

会場 ケニア・ナイロビ(ケニア ヌッタ国際会議場)

会計報告

佐藤常任理事

承認

以上 久保田くら

野沢 良美

理事会議事録

日時 昭和59年11月17日

場所 日本女医学会 会議室

出席者(敬称略)

三神、小俣、稲葉、佐藤、野野、野沢、橋本、丸山、森川、八木、明石、荒木、石川、石原、井上、鈴木、関口、野呂、蓮井、藤井、藤田、山本、添田、西山。  
欠席者(敬称略)  
福永、山崎、久保田、白橋、平瀬、柳瀬、鶴川、川口、川島、町田、マッキンストリ、三好、森、山口

庶務報告

10月27日 常任理事会開催

岡崎国立共同研究機構生理学研究所見学及び第七回学術講演会を名鉄岡崎ホテルにて行なう。

(出席者七十六名)

11月2日 日本女医学会誌百号、ルーベンタンパンフレットを全会員へ発送。

11月8日 事業部会開催

11月10日 庶務部会開催

公許女医誕生百年記念式典を京王プラザホテルにおいて行なう(出席者八十九名)

連絡事項

(1) 国際婦人年連絡会より「国連婦人の十年」世界会議に向けての全国会議開催について

テーマ 国連婦人の十年——その成果と展望——

主催 婦人問題企画推進本部

日時 昭和59年11月22日(木) 午前10時

会場 九段会館

(2) 婦選会館より「婦人会館バザー」の案内

日時 昭和59年11月30日(金) 12月1日(土) 午前10時

午後四時

会場 婦選会館

佐藤常任理事

10月分別紙どおり報告

一、日中医学協会について

日中医学協会財団法人設立にあたり、当会より下記のとおり委員選出の事後承諾あり。

発起人 三神美和

設立準備委員 小俣喜久子

募金委員 丸山芙実、三神美和、個人会員として石井好子、山本杉。

募金趣意書にもつき種々検討した結果、国際交流基金より百万寄付することを決定する。

二、その他

(1) 大里屋衣装店より貸衣裳特典割引きの案内パンフレット発送について

会員へのパンフレット発送は否決される。

(2) 理事会終了後新年会を行なう。とき 昭和60年1月26日(土) ところ 京王プラザホテル(新

宿)

(3) 事務職員冬期ボーナスについて

二、七カ月支給

三、報告事項

(1) 国際女医会へ柳瀬路子会員より一万五千ドル、佐野アヤ子会員より五千ドルの寄付により、柳瀬・佐野奨学金制度を設立される報告あり。

(2) 第七回学術研修会および荻野吟子賞基金口の会計報告あり。

以上 野沢 良美

会員動静

新評議員(敬称略)

宮城支部 長池博子

新子備評議員(敬称略)

江戸川支部 白石芳子

入会会員(敬称略)

宮城支部 劉 雪美

茨城支部 秦 和子

荒川支部 石井 昌

江東支部 武川仁子

世田谷支部 宮坂京子

都下支部 岡野喜久子 矢口光子

神奈川支部 清野愛子

愛知支部 橋川優子 松岡道子

長野支部 中西文子

新潟支部 高橋ひろみ

三重支部 王 碧雲

大阪六支部 堀 あいこ

京都支部 大野順子 岩破順子

好地利栄子

兵庫支部 斧 壽美子

徳島支部 香川典子

福岡支部 原口美智子

沖繩支部 外間登美子

新卒入会会員(敬称略)

北海道支部 今本千衣子(旭川医大)

大、井本祥子(旭川医大)、黒川美朝(東女医)

秋田支部 高橋敏江(秋田大)

福島支部 尾形陽子(東女医)

群馬支部 細木真美(東女医)

埼玉支部 田口夕美子(医科歯科大)

栃木支部 藤沼さち江(独協医大)

足立支部 江頭裕子(東女医)

品川支部 渡部英美(東女医)

渋谷支部 内山昭子(横浜市大)

新宿支部 井口佳代(東女医、清水育子(東女医)、長島律子(埼玉医)、樋口真澄(東女医)、渡辺千恵美(東女医)

杉並支部 王 京子(北里大)

世田谷支部 加藤るみ子(横浜市大)

中野支部 真島佳子(東女医)

文京支部 篠塚敬子(帝京大)

都下支部 庄野マリ(順天大)

神奈川支部 三村圭美(東海大)

山梨支部 長田玲子(東海大、隈部桂子(北里大)、山田佳代子(宮崎医大)

愛知支部 大島ひとみ(東女医)、岡田康子(名古屋衛大)、関谷詩子(名古屋衛大)、館山祐子(名古屋衛大)、松本真理(秋田大)、三宅芳子(愛知医)

大阪九支部 寺村美香子(東女医)、兵庫支部 前田なつ(兵庫医)、船

坂陽子(神戸大)、渡辺裕子(久留米大)

高知支部 川村雅代(東海大)

福岡支部 生塩昌代(久留米大)

物故者会員(敬称略)

荒川支部 関口睦子

江東支部 諸橋たけ

杉並支部 森 トキ

港支部 井上幸子

岐阜支部 原田光子

大阪九支部 辻谷八枝子

京都支部 菅沼シズ

兵庫支部 下村よしゑ

広島支部 頼島富子

集後



昭和の御代もついに六十年、史上稀なるめでたき新年を迎え、会員諸先生方のますますのご健康とご繁栄を心から祈り上げます。

さて、本誌はいよいよ充実され、冒頭にはまだまだ饜饒とした三神会長の巻頭言をいただき、公許女医誕生記念行事報告、また岡崎市において日本にただ一つである生理学研究所の殿堂の中で開催された、研修会報告、そして若い女医の研究助成報告記事等、ご覧いただいた皆様方には日本女医会がだんだんと若返り、力溢れる意気込みであることにお気付きのことと存じます。

これらの行事に止むなくご欠席の方にも、次回はずいぶん障繰り合わせ

ミスプリントの訂正とお詫び  
前号七頁に記載されました荻野吟子賞基金への募金額一口一万円とありましたが、一口一千元と訂正し、深くお詫び申し上げます。

一、名称 荻野吟子賞基金  
一、金額 一口一千元(一口以上幾口にても可)  
一、振込先 富士銀行渋谷支店  
普通預金 一七四一三三四  
口座名/荻野吟子賞基金  
代表/三神美和

てご参加下さいますようお願い申し上げます。

本誌の予告掲載でご承知のように、本年五月には東京・京王プラザホテルにおいて総会開催の予定であります。今回は役員改選の期でもあり、本会の発展向上のため一人でも多数の方のご参加をお待ちしております。最後にご多忙の中、玉稿を賜りました諸先生方に厚くお礼申し上げます。(八木)

昭和60年1月20日 印刷  
昭和60年1月25日 発行  
編集人 八 木 貞 子  
発行人 日 本 女 医 会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医会  
TEL (498) 〇五七一  
制作 東京都文京区水道1-5-16  
株式会社 金剛出版